

トラック輸送情報（平成20年12月分）

平成21年3月16日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：http://toukei.mlit.go.jp/

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

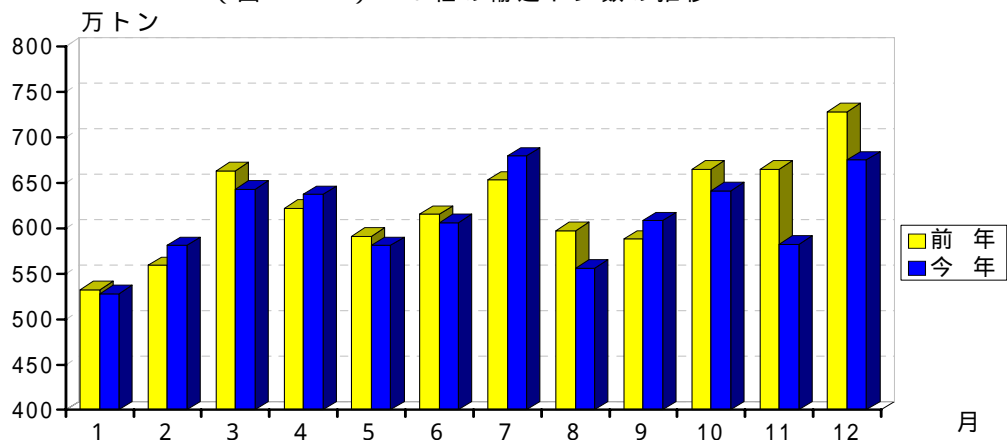
調査対象26社の本月の輸送量は、6,748,732トンで、前月と比べ総輸送量が約93万トン増加したため、前月比116.0%（季節調整済み98.9%）となり、前年同月との比較では、約53万トン減少したため、前年同月比92.7%の実績であった。

なお、平均稼働日数は23.3日で、前月と比べ0.8日の増加、前年同月と比べ0.2日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、289,645トンで、前月と比べ約3万トン増加したため、前月比112.0%となり、前年同月との比較では、約2万6千トン減少したため、前年同月比91.9%の実績であった。

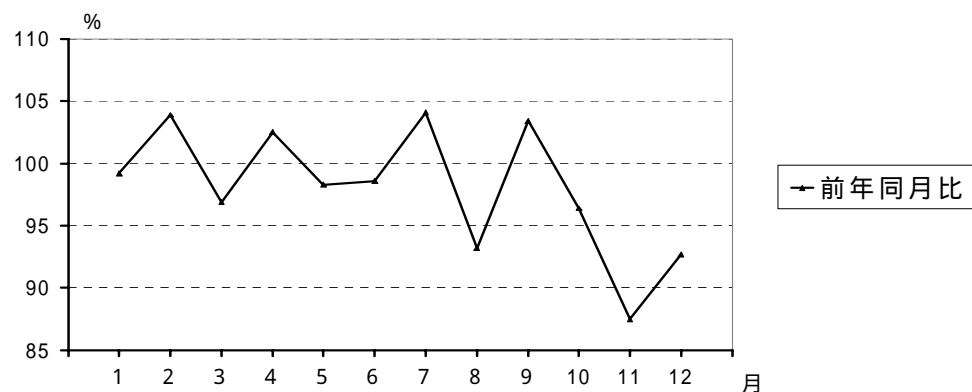
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

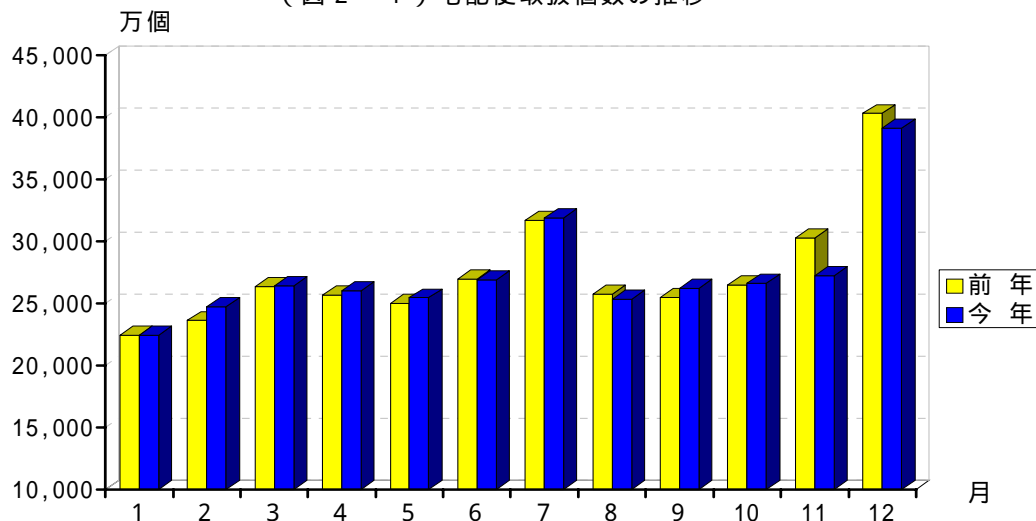
調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、391,400 千個で、前月と比べ 約 1 億 1,895 万個増加したため、前月比 143.7% (季節調整済み 98.8%) となり、前年同月との比較では、約 1,162 万個減少したため、前年同月比 97.1% の実績であった。

(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

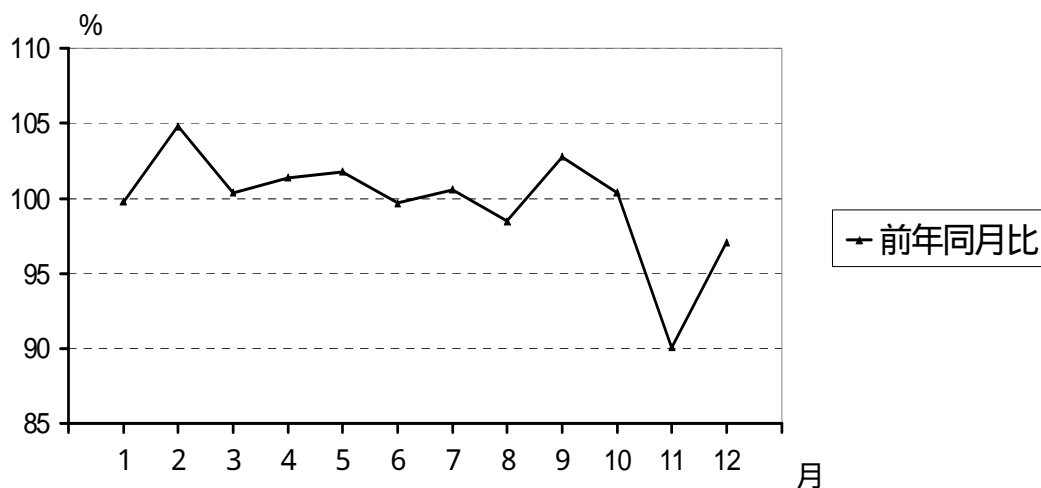
注) 平成 20 年 4 月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。

対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、年末に伴う貨物増等により、全体として輸送量は増加した。しかしながら、不況に伴う減産の影響等により、「金属製品」、「機械」等、輸送量が減少している品目もみられる。地域的には、「食料工業品」が関東地方、中部地方、近畿地方等の大都市圏を中心に輸送量が増加したほか、「日用品」は北海道、神奈川、近畿、九州において、「その他(宅配便、百貨店配送品)」は全国で輸送量が増加した。一方、主に東京、愛知、大阪及びその周辺地域で「金属製品」、「機械」の輸送量が減少した。

前年同月と比べると、稼働日数は若干増加しているものの、不況の影響等によりほぼすべての品目で輸送量が減少している。品目別では、主に不況に伴う工場・生産地からの貨物減、倉庫から出る貨物減等により「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「日用品」の輸送量が減少している。地域的には、「繊維工業品」が中部地方及び近畿で減少したほか、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「日用品」ではほぼ全国的に減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前 月 に 比 べ て	農水産品	4	1	12	2	野菜、青果物	中国	4	
	金属製品		2	14	5	建築用金属製品、その他の金属製品	東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方	4	
	機械	1	1	14	4	1	機械部品	神奈川、愛知、大阪、近畿、中国	4
	化学工業品		4	13	5	1	その他の化学工業品	関東	
	繊維工業品		3	14	6		織物	神奈川 東北	
	食料工業品	4	5	8	4		飲料、その他の食料工業品、加工食品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	日用品	2	6	11	4		書籍・印刷物、玩具、その他の日用品	北海道、神奈川、近畿、九州	4, 5, 8
	その他	5	5	8	4		宅配便、百貨店配送品	全国	2, 5, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	13	1	1	青果物	中国	4
	金属製品		1	10	7	3	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	機械	1	1	7	10	2	電気機械、その他の機械、機械部品	東北、関東、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 7, 9
	化学工業品		1	11	8	3	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7, 9
	繊維工業品			16	6	1	織物	中部地方、近畿	4, 7
	食料工業品		3	14	3	1	加工食品	近畿、中国	
	日用品		1	9	10	2	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	東北、東京、関東、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国、九州	4, 5, 9
	その他		4	9	8	1			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 793 社 / 調査対象事業者数 1,075 社）の輸送量は、前月比 101.6%、前年同月比 93.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	101.6%	99.2%	103.0%	99.3%	100.4%	97.5%	104.8%	103.1%	104.9%	104.8%	114.6%
前年同月比	93.3%	95.2%	95.9%	91.5%	96.5%	86.2%	89.5%	90.6%	90.8%	94.6%	136.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 99.2%、対前年同月比 95.2%であった。品目別には、季節的需要増により「揮発油」、「その他の石油製品」、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「セメント」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他の農産品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 103.0%、対前年同月比 95.9%となり、年末ということもあって対前月比は増加したが、対前年同月比はマイナスとなっている。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、不況等により「鉄鋼」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「穀物」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 99.3%、対前年同月比は 91.5%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 100.4%、対前年同月比は 96.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「金属製品」、「機械」の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「鉄鋼」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 97.5%、対前年同月比は 86.2%であった。管内すべての県で対前年同月比 2 桁のマイナスとなったことから、13.2%の大幅な減少となっている。このような中で、季節的需要増等により「セメント」、「日用品」等の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 104.8%、対前年同月比は 89.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、不況の影響等により「金属製品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減により「化学薬品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 103.1%、対前年同月比は 90.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、自動車等の工場の減産により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「化学薬品」の輸送量が減少したほか、「その他の化学工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 104.9%、対前年同月比は 90.8%であった。品目別には、年末の季節的需要増等により「野菜・果物」、「その他の農産品」等の第一次産業の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「食料工業品」等の第二次産業の輸送量が減少した。年末のため、前月より輸送量は増加しているが、景気の後退により、依然として対前年同月比の輸送の感触は厳しい状況にある。また、今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 104.8%、対前年同月比は 94.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したほか、公共工事の増加により「セメント」の輸送量にも増加がみられた。一方、不況の影響等により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、景気上昇の兆しが見えない中、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、年末に伴う需要増に伴い各社とも軒並み対前月比輸送量が増加したため、対前月比 114.6%となっている。また、対前年同月比は 136.0%であった。品目別にみると、「穀物」、「その他の農産品」、「金属製品」、「紙・パルプ」の輸送量が増加した一方で、「金属くず」の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減											
1. 穀物	増	3	1									2	1	7
	減		3											3
2. 野菜・果物	増					2				1	3	7		13
	減	4	1		1			1				3		10
3. その他の農産品	増				1						1	1	1	4
	減	7										2		9
4. 畜産品	増	1										2		3
	減													
5. 水産品	増		1		1	1	1	1	2	1	3			10
	減	1							1		1			3
6. 木材	増		2										1	3
	減	5			2			1	3					11
7. 薪炭	増													
	減		1											1
8. 石炭	増	1												1
	減													
9. 金属鉱物	増				1									1
	減		1		1			1						3
10. 砂利・砂・石材	増	3	1		1			1				2		8
	減	13			2							1		16
11. 工業用非金属鉱物	増									1				1
	減	1	1									2		4
12. 鉄鋼	増		1	1						1	1	1		5
	減	1	2	1	2			2	8			2		18
13. 非鉄金属	増													
	減		1		1									2
14. 金属製品	増		1	1		1						1	1	5
	減	3	1	1	4	1	2	4			3			19
15. 機械	増	1	1	1	1	3	1	2	1	2	1	2		13
	減	2	2		3	2	1	9				6		25
16. セメント	増		2			2		1		1		4		10
	減	4			1	1			1	1	1			9
17. その他の窯業品	増		1	1	1				1			2		6
	減		1		1			1	2			1		6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	3	1	1	4				1	2
	減											
19. その他の石油製品	増	4		1	1		1	2	1	2		12
	減						1	1		1		3
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							1
	減											
21. 化学薬品	増	1							1			2
	減				1		2	2	1			6
22. 化学肥料	増				1					1		2
	減	1	1	1							1	4
23. その他の化学工業品	増									1		1
	減							4		3		7
24. 紙・パルプ	増		1	1			1	4	1		2	10
	減	3	1	2		1		2		2		11
25. 繊維工業品	増											
	減				1				1			2
26. 食料工業品	増	4	5	2	3	1	5	12		1		33
	減		2		1			2	2	3		10
27. 日用品	増	2		1		2		2		2		9
	減	1			1		1	1		1		5
28. その他の製造工業品	増		1					1				2
	減	1	4	3		1	3	4				16
29. 金属くず	増											
	減			1						1	1	3
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	3	1	1	1					3		9
	減							1				1
32. 廃棄物	増	2			1			1				4
	減	3			1							4
33. 輸送用容器	増								1			1
	減	1			1							2
34. 取り合せ品	増		5	1				4		1	2	13
	減					1				2	1	4
35. その他	増		3		4	2	3	1		6	1	20
	減		1	2	2	2	1			3		11